

## 四国大学アセスメントポリシーによる情報の公表

令和4年4月  
四国大学教育改革推進委員会

- (1) 四国大学・四国大学短期大学部では、これからの社会を担い、新しい時代を切り拓いて社会をリードする人材を育てるため、これまで実施してきたカリキュラムを進化させ新しい時代に合った教育プログラムを策定し、2020年4月から開始しています。
- (2) このプログラムの教育の質を高めるためには、本学の三つの方針※1（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入の方針）に基づく体系的で組織的な大学教育を、プログラム共通の考え方や尺度（アセスメントポリシー※2）を踏まえて適切に点検・評価し、継続的な改善に取り組む必要があります。
- (3) 本学のアセスメントポリシーは、三つの方針を基に学生の学修成果に関する情報を的確に把握・測定し、教育活動の見直し等に適切に活用するとともに、大学全体の教育成果を広く社会や企業等の外部からの理解を得るため、その成果等を毎年公表することとしています。

※1 三つの方針（3ポリシー）の内容については以下のサイトをご参照ください。

<https://www.shikoku-u.ac.jp/education/3policy/> （四国大学 Top > 教育・研究 > 3つのポリシー）

※2 アセスメントポリシー … 学生の学修効果（アセスメント）について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法等について定めた学内の方針。

## 【入学前・入学時の検証・評価について】

四国大学では、入学前・入学時にアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に則した入学試験となっているかについて、次の2項目を検証・評価しています。検証のデータとしては、学内での調査結果を使用しています。

### ① 各入学試験の成績

#### （1）総合型選抜

この入試には、高大接続入試・自己実現入試・分野別入試と3種類の入試がある。それぞれ選抜方法が学部によって方法が異なり、特徴の違いがある。ここでは、選抜方法の二つの要素を取り出して相関関係を数値化してその特徴を検証した。

高大接続入試のセミナー活用タイプでは、面接と報告書、調査書を総合しての選抜と小論文と面接、報告書そして調査書を総合しての選抜とがある。文学部や経営情報学部および短期大学部では、正の相関関係があると考えられる。

また、小論文と調査書との関係をみると相関関係が高く、調査書に比例した小論文の高い得点状況が読み取れる。自己実現入試と分野別入試においては、どれも正の相関関係にあり、小論文と調査書との関係は信頼の高い入試といえることができる。

#### （2）推薦入試と一般入試

推薦入試は、筆記試験、面接、調査書および推薦書等を総合して選抜している。ここでは、概ね正の相関関係が見られるが、生活科学部の分布を検討すると調査書の度数の分布状況よりも試験の度数分布の状況が幅広く点在しており、多様な学生の実態が考えられる。

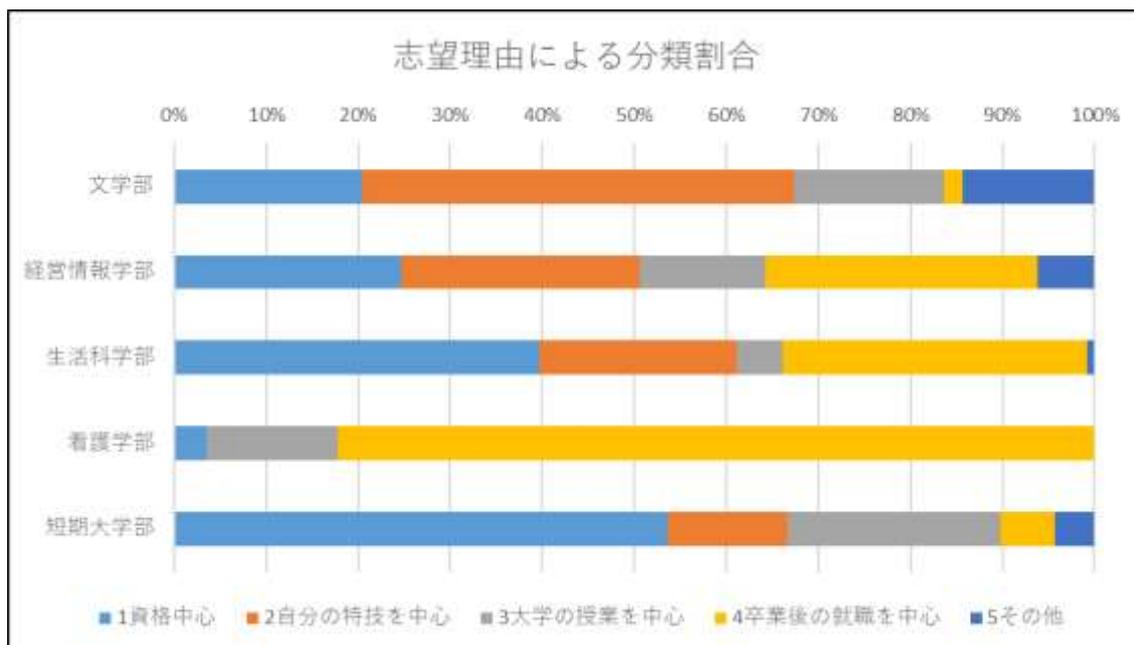
一般入試は、筆記試験と調査書によって合格者を決定している。これも、推薦入試と同様に正の相関関係が特徴となっている。そしてどの入試よりも相関関係は顕著である。調査書の得点が高いものは、試験でも高得点をとっている。

### <検証・評価結果>

各入試の試験成績については、小論文と記述の試験問題を分けて考えると、記述では各教科の平均点は概ね約60点を中心に散らばっている一方、小論文では60点を目標とはしていないこともあり、また平均を目標と据えていないため、70点後半を中心に得点している。入試成績と調査書との相関関係については、学部によっては右肩上がりの近似線を示していて、調査書との相関は正の比例の延長上にある学部もある。

## ② 志願理由

総合型選抜入試の志願理由について、受験生が書いている動機を5種類に分類してみた。1 資格中心、2 自分の特技を中心、3 大学の授業を中心に据えたもの、4 卒業後の就職を中心に考えたもの、5 その他（文化交流・ボランティア・コミュニケーションなどに魅力を感じて）。各学部別の志願理由の割合は次のとおりです。



### <検証・評価結果>

総合型選抜入試における志願理由の主たる力点を1 資格、2 特技、3 授業、4 就職、5 その他に分類すると、文学部と経営情報学部は平均的に分散した特徴であり、生活科学部は特技や就職を念頭においたものであり、看護学部では就職に力点がある。また、短期大学部では資格取得を重要視している。

## 【在学中の学修状況の検証・評価について】

四国大学では、在学中にカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した学修となっているかについて、次の9項目を検証・評価しています。検証のデータとしては、学内での調査及び大学IRコンソーシアム調査※結果を使用しています。

### ※大学IRコンソーシアム調査（以下「大学IR調査」といいます。）

IR (Institutional Research) とは、大学の計画立案、政策形成、意思決定に寄与することを目的として、大学に関係する様々な情報を収集、分析する活動のことです。このIRを効果的に実施するために、全国60の国公立大学が加盟して「大学IRコンソーシアム」を形成しています。このコンソーシアムでは、毎年、加盟大学の1年生及び上級生（3年生）約10万人の学生を対象に、学修状況や満足度に関する共通設問アンケートを実施し、その結果を持ち寄って集計、分析しています。本学も毎年、全学生がこの調査に参加しており、約90%の学生から回答を得ています。また、大学IRコンソーシアムでは、2019年度から卒業生調査にも取り組んでおり、本学では卒業後5年を経過した卒業生を対象に卒業生アンケートを実施しています。

### ① 学生の年間修得単位数

- ・ 本学の卒業に必要な単位数は、大学124単位（看護学科125単位）、短期大学部62単位となっています。
- ・ また、大学でもっと多くのことを学びたいと望む学生や、将来の就職に向けて免許や資格の取得を目指す学生には、それに必要な単位を取得することができます。
- ・ 本学では、過剰な履修をせず、各科目に対する十分な学習時間を確保するために、学生が1年間に履修科目として登録できる上限を、次のように定めています。

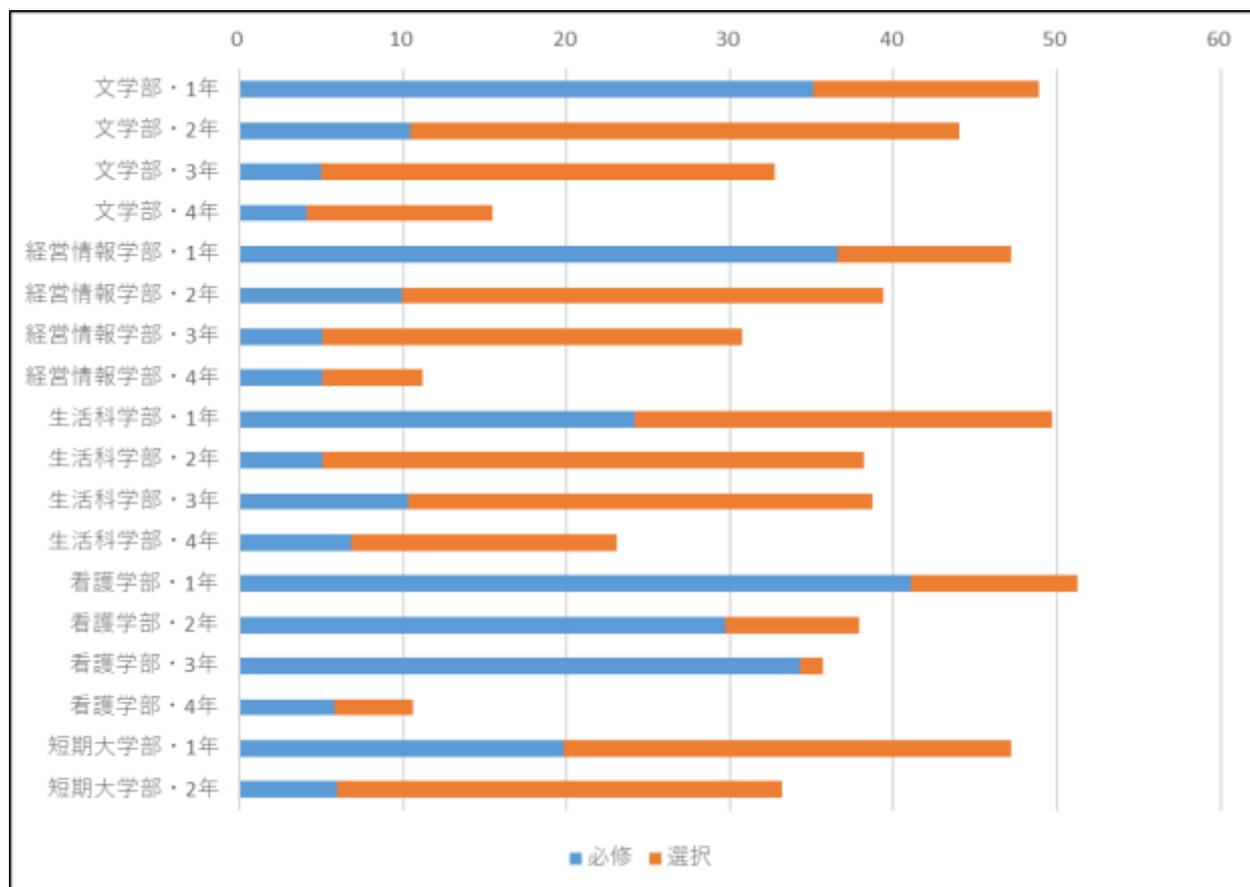
学部／学年	1年	2年	3年	4年
文学部	48	48	37 (48)	37 (48)
経営情報学部	48	48	48 (48)	36 (48)
生活科学部	48	48	48 (48)	41 (48)
看護学部	48	48	48 (48)	41 (48)
短期大学部	50	50		

※（）内は編入学生

※ 免許資格科目等は上限単位数に含みません。

※ 成績優秀者等は、申請により適用が除外される場合があります。

・ 2020 年度の、学部・学年別の、年間平均修得単位数（必修・選択）は次のとおりです。



< 検証・評価結果 >

学部・学年別の平均修得単位数は、卒業見込に必要な単位数を満たしている。逆に、平均修得単位数が履修上限単位数を上回っている学部・学年があり、単位の実質化の観点から、年次配当見直し等の検討の余地がある。また、修得単位数と GPA の比較では、一部の学科・専攻において明らかな正の相関が現れており、修得単位数が少なく成績も振るわない所謂「落ちこぼれ」グループを生んでいないか検証する必要がある。

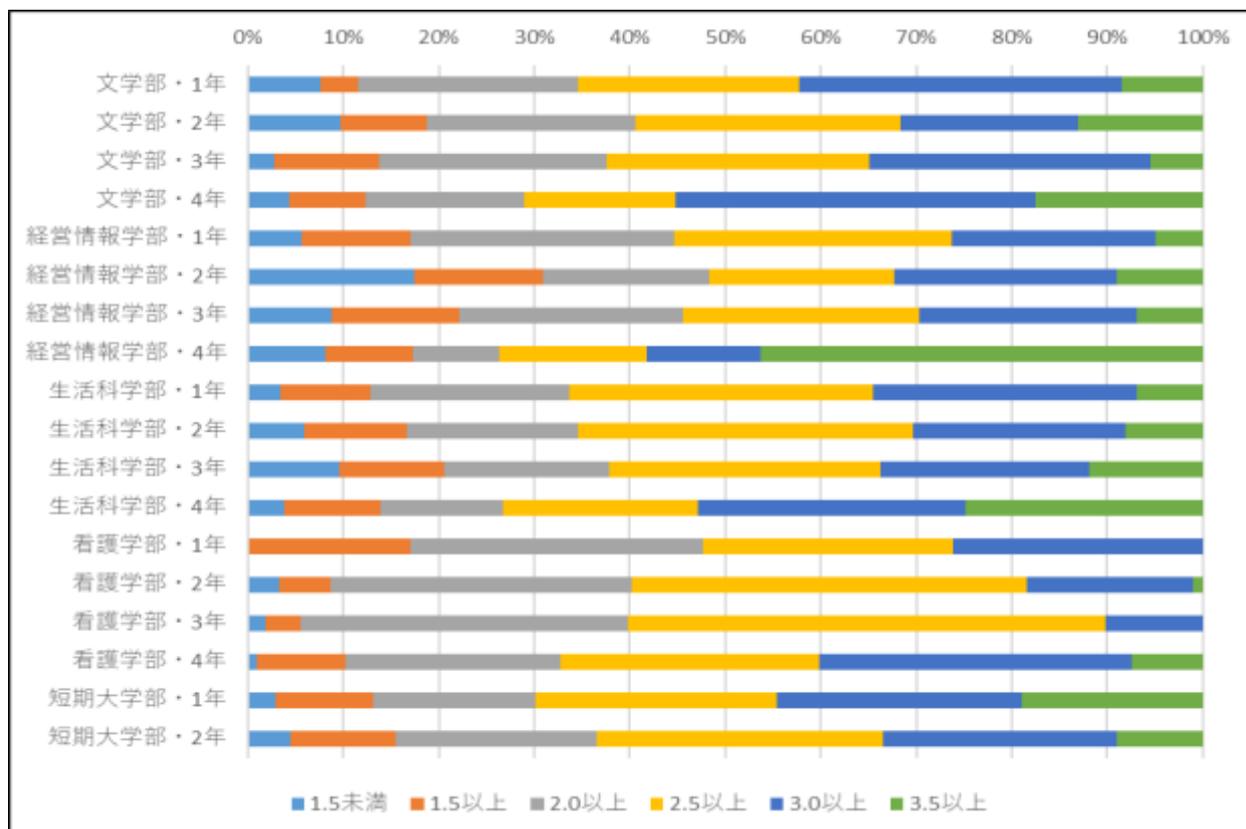
② 成績評価（GPA）について

- ・ GPA（Grade Point Average）は、履修科目ごとに成績評価（秀、優、良、可、不可）と単位数に応じたポイントを付与し、その合計を履修総単位数で除することで、履修1単位当たりの成績を数値化したものです。具体的には、次の計算式によって算出されます。
- ・ また GPA は、本学では各種奨学金の採用や継続等の判定、交換留学生の選抜や表彰者等の選出のほか、GPA が低い学生に対する学習指導や履修上限単位数を超える履修可否の判定などに活用しています。また学外においても、就職試験や助成金の選抜等で学生の学力や学習に対する姿勢を測る指標のひとつとして広く活用されています。

素点	評価	QPI ※1	QP ※2	GPA
90~100	秀	4.00	QPI×単位数	$\frac{\text{QPの合計}}{\text{履修科目の単位数の合計}}$
80~89	優	3.00		
70~79	良	2.00		
60~69	可	1.00		
60未満	不可	0.00		

※1 QPI … Quality Point Index, ※2 QP … Quality Point

- ・ 2020年度の、学部・学年別の、GPA（単年度のGPA）の分布は次のとおりです。



<検証・評価結果>

学部間の GPA 分布の偏りについては改善傾向がみられるものの、同一学部内で学科・専攻毎の GPA 分布を比較した場合、依然として甘い方に偏っている学科・専攻と、逆に厳しい方に偏っている学科・専攻が存在する。GPA の有効活用の観点から、平準化に向けてさらなる改善が必要である。

### ③ 地域教育プログラムの関心度

- ・ 地域教育プログラムは、これからの地域社会で地域創生を担う学生が、地域の課題を解決するための知識や技術を体系的に学ぶことができるよう開発された教育プログラムです。
- ・ この地域教育プログラムは、全学共通科目の地域連携科目、学生の自主活動を基にした自由科目、地域志向型の専門科目、及び新『あわ学』への取り組みなどの地域研究で構成されています。

- ・ 2020 年度に地域連携科目（全学共通科目）を履修した学生のうち、地域連携科目について「関心がある」「ある程度関心がある」と回答した者、及びこれらの科目を学ぼうとした動機について「興味がある」「おもしろそう」と回答した者の割合は次のとおりです。



#### <検証・評価結果>

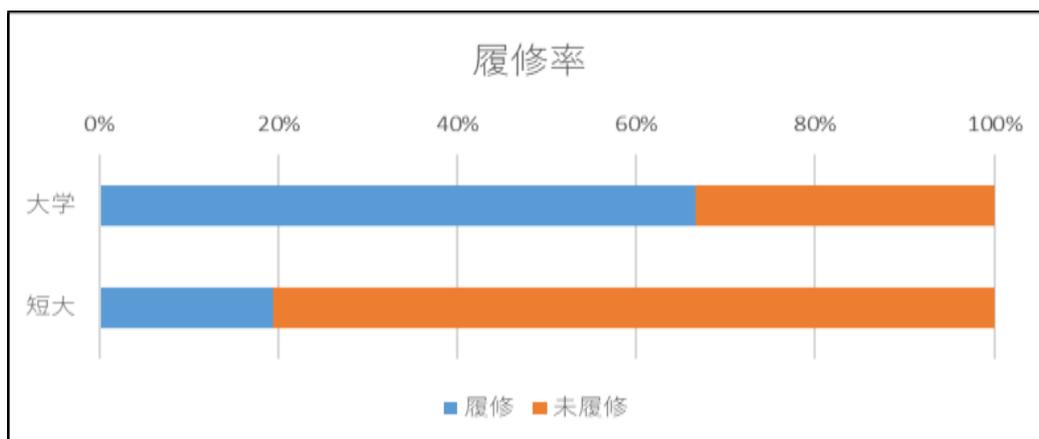
2020年度の学生によるアンケート調査によると、受講後、地域教育に関心を持った学生は、「地域未来探求」「徳島の歴史と文化」「消費者市民社会」「地域創生入門」「四国いやしの道」の5科目については8割以上であった。「災害と防災」では7割以上で他の科目より低かったが、目標値（2019年度調査をベースに毎年2パーセント刻みで上回るように設定）を上回っていた。全科目の平均値では86.2%と目標値の83.2%を3ポイント上回った。地域連携科目を学ぼうとした動機は「興味がある」または「おもしろそう」と回答した学生の割合が高く、「地域未来探求」「徳島の歴史と文化」「災害と防災」「消費者市民社会」「地域創生入門」の5科目で2019年度調査をベースにした目標値を上回った。全科目の平均値では74.9%と目標値の61.7%を13.2ポイント上回った。今後、学生にさらに関心をもたせるため、教育内容・方法の工夫を継続する必要がある。

④ 地域教育科目の履修状況

- ・ 2020年度の大学・短大別の地域連携科目（全学共通科目）の履修者数と、2020年度卒業生におけるこれらの科目の履修率は次のとおりです。

履修者数

科目名	大学（人）	短期大学部（人）
地域未来探求（後期）	59	8
徳島の歴史と文化（前期）	117	8
徳島の歴史と文化（後期）	109	15
災害と防災（後期）	92	12
消費者市民社会（前期）	142	7
地域創生入門（前期）	77	2
四国いやしの道（後期）	139	11



$$\text{※履修率} = \frac{\text{在学中に地域連携科目を1科目以上履修した卒業生の人数}}{\text{全卒業生数}}$$

< 検証・評価結果 >

地域連携科目は、いずれの科目も定員に上限を設け、抽選により受講者を決定している。定員をわずかに下回る受講生数になっているのは、昨年度と同様、履修の登録後、専門科目との重複や上限単位の超過等の理由により、履修の取り消しを申請する受講生がいるためである。全体としては履修者数の目標値をほぼ達成していた。「徳島の歴史と文化」と「災害と防災」については、抽選から漏れる学生が多いことから、定員数を増やし学生のニーズに応じていく必要がある。

⑤ 全学的なクラブ・サークルへの参加状況

- ・ 環境や考え方の異なった者同士がクラブやサークル等に参加することで、自由と規律、義務と責任を重んずる中で社会生活を営むための基礎がつけられ、人間関係を育成し、学生生活をより充実したものになります。
- ・ 本学には、体育系 34、文科系 27 のクラブがあります。また、クラブの他に同好会等のサークルもあり、活発な課外活動を展開しています。

- ・ 2020 年度の、大学・短大、体育系・文化系別の、クラブ・サークルへの参加者数と参加率は次のとおりです。

	体育系		文化系		計	
	参加者数(人)	参加率	参加者数(人)	参加率	参加者数(人)	参加率
大学	586	23.8%	500	20.3%	1,086	44.1%
短期大学部	23	5.4%	38	9.0%	61	14.4%
計	609	21.1%	538	18.6%	1,147	39.7%

<検証・評価結果>

課外活動参加率は、大学は 65%以上、短期大学部は 35%以上というそれぞれの目標を下回った。これは、新型コロナウイルスの影響もあり年度当初から各クラブの活動機会が失われ、勧誘活動も同調する形となったことが原因として考えられる。対応策として、希望するクラブには屋外でクラブオリエンテーションを実施し、また各クラブ員にチラシ配布や SNS の発信等、活発な勧誘活動を推奨した。そのため、前期中盤から後期にかけて緩やかな加入率増加が継続し、現参加率に至っている。今後も各クラブが、YouTube 等の SNS の積極的活用やオープンキャンパスの有効活用等、主体的に工夫を凝らして勧誘活動を行う意識付けと環境整備が必要である。

⑥ ボランティア活動、地域貢献活動の状況

- ・ 本学では、学生の地域貢献活動やボランティア活動への積極的な参加を促すため、学生一人ひとりに『SUDAchi カード』を発行し活動時間を記録しています。
- ・ SUDAchi カードに記録された活動時間が 60 時間や 120 時間（短期大学部は 30 時間や 60 時間）に達し、活動に関するレポートや報告書を提出して内容が認められれば、それぞれ「地域貢献・ボランティア活動Ⅰ」、「地域貢献・ボランティア活動Ⅱ」といった地域教育関連科目（自由科目）の単位が認定されます。
- ・ また、学生ボランティアコーディネーターとスーパーバイザーの教員によって自主的に運営されている『学生ボランティア活動支援室』があります。
- ・ 学生ボランティア活動支援室では、SUDAchi カードを発行・運用する地域教育・連携センターと連携し、学生がボランティア活動をスムーズに展開できるよう、地域社会におけるニーズと活動したい学生のシーズをコーディネートしています。
- ・ 学生によるボランティア活動の具体例としては、人とサル共生プロジェクト～木頭ゆずちぎりたい（隊）！、徳島県議会議事堂で書道パフォーマンス、勝浦さくらまつり（運営ボランティア）といった活動が挙げられます。

- ・ 2020 年度在学生の、大学・短大別の、SUDAchi カード発行者数、ボランティア活動参加者数、ボランティア活動総時間数、年間一人当たり平均時間数は次のとおりです。

	大学	短期大学部
SUDAchi カード発行者数（人）	208	23
ボランティア活動参加者数（人）	76	16
ボランティア活動総時間数（時間）	720	148
年間一人当たり平均時間数（時間）	9.47	9.25

- ・ 2020 年度在学生の、大学・短大別の、地域教育関連科目（自由科目）の単位認定者数は次のとおりです。

	大学	短期大学部
地域貢献・ボランティア活動Ⅰ（人）	6	0
地域貢献・ボランティア活動Ⅱ（人）	2	0
計	8	0

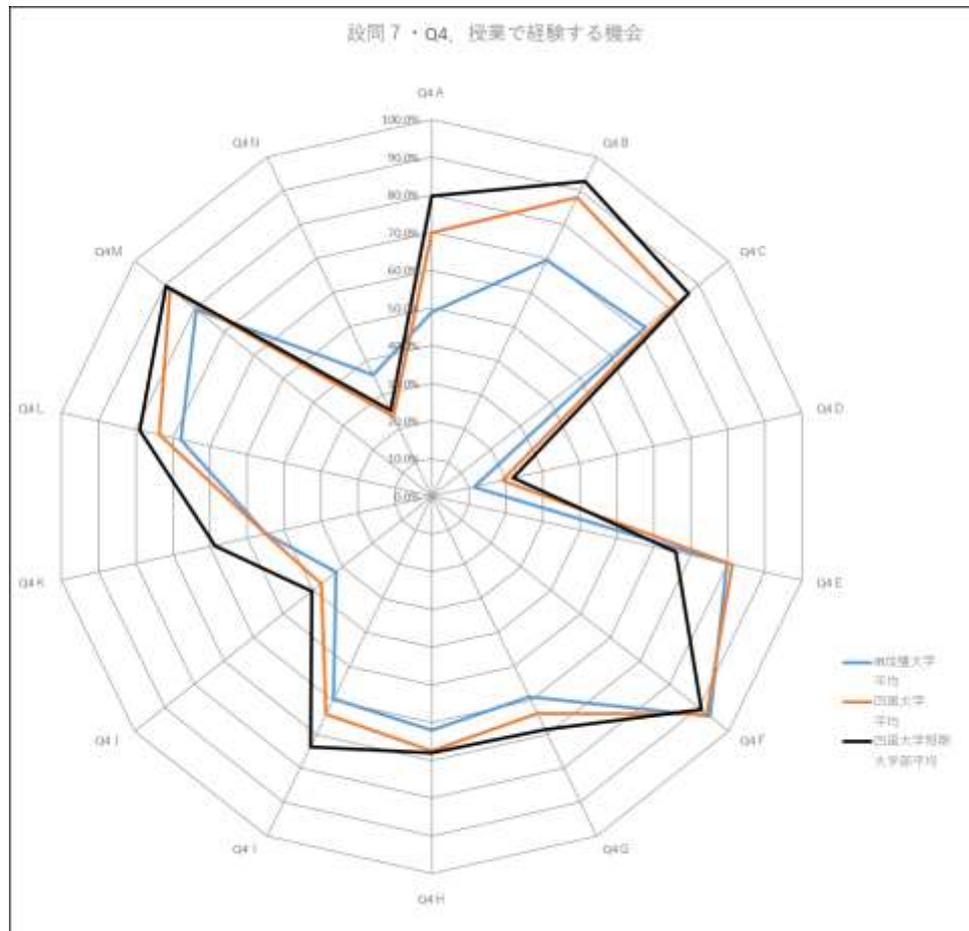
<検証・評価結果>

コロナ禍による影響によりボランティア活動が制限されたため、2019年度のボランティア活動参加者126人、ボランティア活動時間数2,127時間に対し、2020年度は参加者92人、活動時間数868時間と、地域貢献活動への参加が難しかった。また2020年度は、一人当たりの活動時間数についても2019年度の16.88時間、単位認定割合32.54%からいずれも大幅に下回る結果となった。今後は、コロナウイルスの感染拡大防止に十分注意しながら、地域貢献活動ができる内容を検討する必要がある。

⑦ 学修状況調査 (IR 調査)

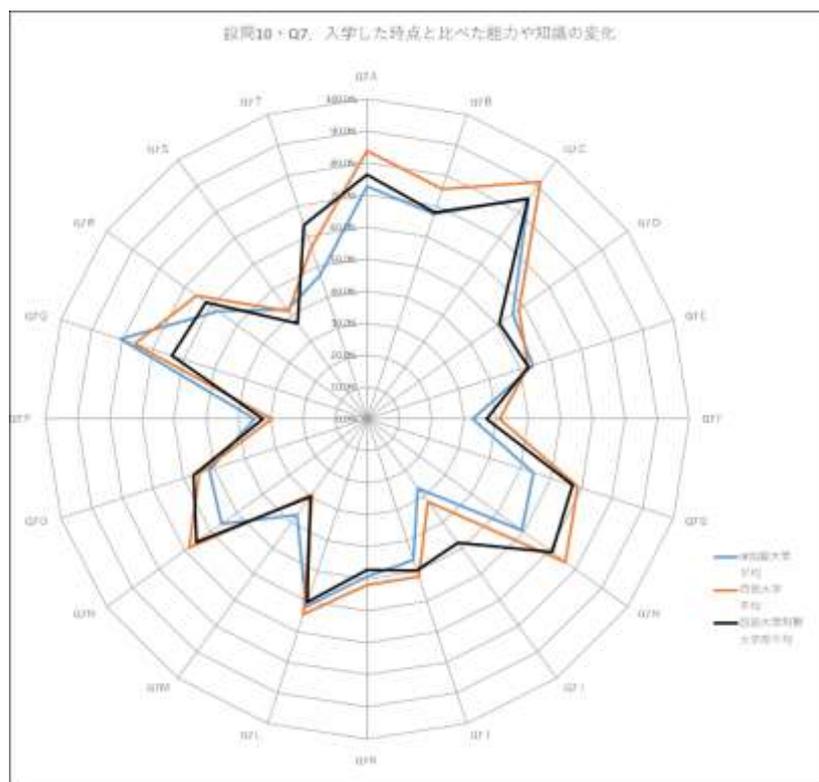
- ・ 2020 年度の大学 IR 調査における、大学・短大別の、Q4「あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか」に対する、肯定的回答者率は次のとおりです。

設 問	IR 加盟 大学	大学	短期 大学部
A 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	48.9%	69.9%	79.7%
B 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	69.5%	88.1%	92.7%
C 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する	71.8%	82.7%	86.4%
D 授業の一環でボランティア活動をする	11.3%	19.0%	21.8%
E 学生自身が文献や資料を調べる	79.7%	81.1%	65.9%
F 定期的に小テストやレポートが課される	93.6%	92.5%	90.6%
G 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	58.9%	63.9%	68.7%
H 学生が自分の考えや研究を発表する	62.0%	67.5%	68.1%
I 授業中に学生同士が議論をする	59.6%	64.1%	73.7%
J 授業で検討するテーマを学生が設定する	32.2%	37.2%	40.5%
K 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる	44.8%	44.9%	58.6%
L 取りたい授業を履修登録できた	67.9%	73.7%	78.9%
M 出席することが重視される	79.4%	88.1%	89.5%
N TA や SA などの授業補助者から補助を受ける	35.7%	23.5%	25.3%



- ・ 2020 年度の大学 IR 調査における、大学・短大別の、Q7「入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか」に対する、肯定的回答者率は次のとおりです。

設 問	IR 加盟大学	大学	短期大学部
A 一般的な教養	72.8%	83.9%	76.4%
B 分析力や問題解決能力	67.3%	75.6%	67.8%
C 専門分野や学科の知識	85.3%	91.5%	84.9%
D 批判的に考える能力	55.9%	58.3%	50.6%
E 異文化の人々に関する知識	54.1%	52.4%	52.6%
F リーダーシップの能力	32.8%	41.0%	37.0%
G 人間関係を構築する能力	54.3%	68.7%	67.1%
H 他の人と協力して物事を遂行する能力	59.3%	76.0%	70.9%
I 異文化の人々と協力する能力	26.9%	32.0%	47.9%
J 地域社会が直面する問題を理解する能力	46.3%	51.8%	49.7%
K 国民が直面する問題を理解する能力	49.2%	51.8%	47.2%
L 文章表現の能力	61.7%	64.1%	60.2%
M 外国語の運用能力	37.0%	29.1%	29.9%
N コミュニケーションの能力	55.8%	68.4%	65.5%
O プレゼンテーションの能力	51.5%	54.8%	56.7%
P 数理的な能力	35.0%	29.6%	32.3%
Q コンピュータの操作能力	80.6%	76.0%	63.7%
R 時間を効果的に利用する能力	57.2%	65.6%	61.9%
S グローバルな問題の理解	42.2%	41.5%	36.8%
T 卒業後に就職するための準備の度合い	47.2%	56.2%	63.7%



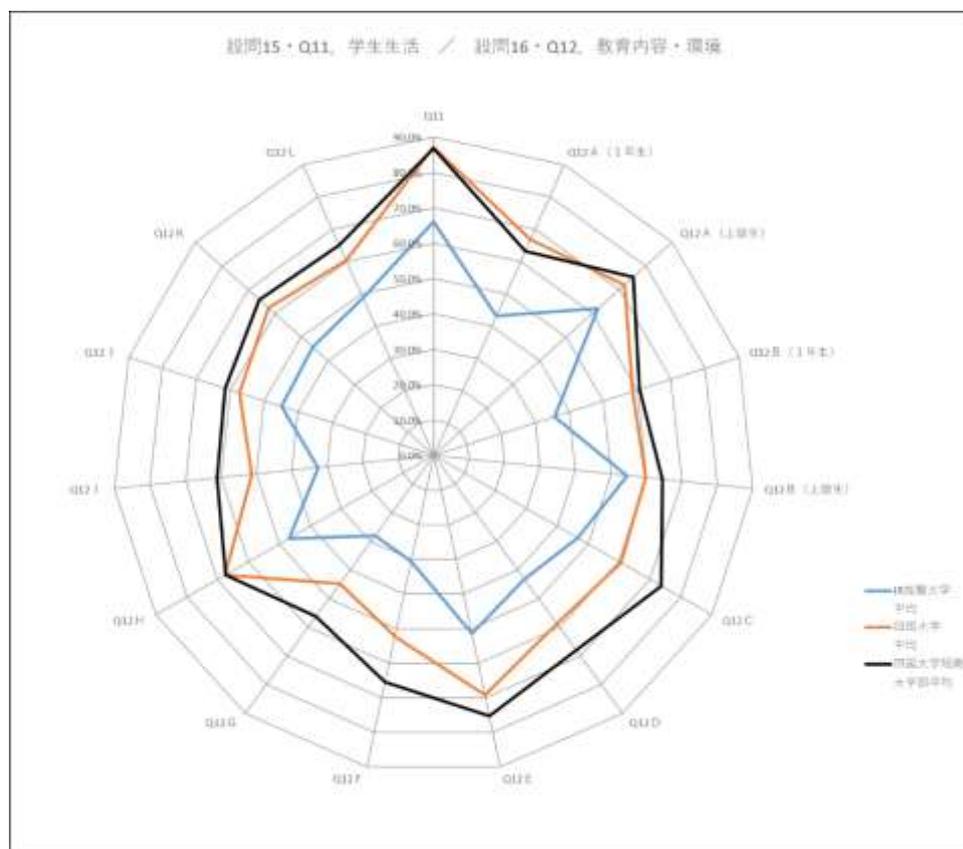
<検証・評価結果>

34項目中、肯定的回答率がIR加盟大学平均と比べて5ポイント以上上回っている項目が、大学で18項目、短大で17項目。逆に5ポイント以上下回っている項目は大学で3項目、短大で6項目と、昨年度に比べて大幅に改善した。新型コロナウイルスの影響で、一昨年と比べてIR加盟大学の肯定的回答率が低下する中、本学はよく健闘したといえる。ただし、個別に見た場合はIR加盟大学の肯定的回答率を下回る項目が目立つ学科・専攻もあり、詳細な分析・評価を行った上で改善点を明らかにする必要がある。

⑧ 学生満足度調査（IR 調査）

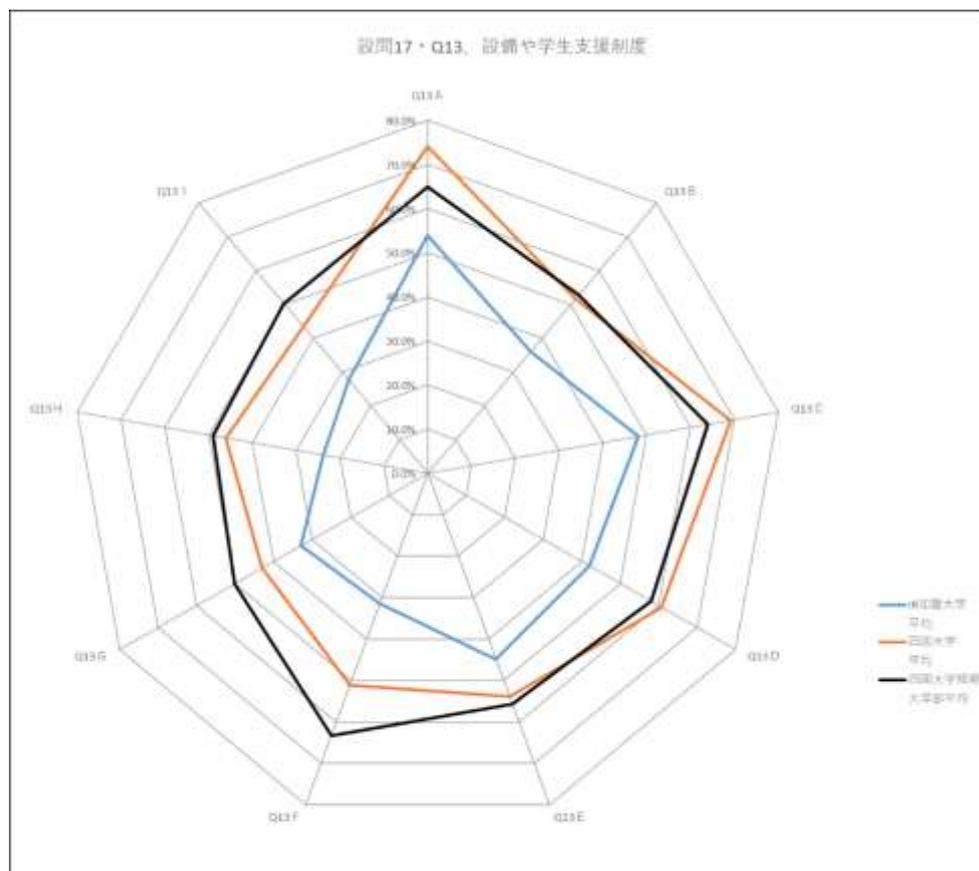
- ・ 2020 年度の大学 IR 調査における、大学・短大別の、Q11「あなたの学生生活は充実していますか」及び Q12「あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか」に対する、肯定的回答者率は次のとおりです。

設 問	IR 加盟 大学	大学	短期 大学部
11 あなたの学生生活は充実していますか。	66.1%	87.2%	86.7%
12A（1年生）共通教育あるいは教養教育の授業	43.3%	66.8%	63.1%
12A（上級生）専門教育あるいは所属学科の授業	62.0%	72.0%	75.3%
12B（1年生）初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど）	35.6%	58.6%	60.7%
12B（上級生）2年次または3年次を対象としたゼミ（演習）などの教育内容	54.5%	59.7%	64.4%
12C 授業の全体的な質	46.6%	60.5%	73.7%
12D 日常生活と授業内容との関連	43.2%	58.7%	67.9%
12E 将来の仕事と授業内容の結びつき	51.5%	69.1%	75.3%
12F 教員と話をする機会	30.6%	52.2%	65.5%
12G 学習支援や個別の学習指導	27.9%	44.7%	56.2%
12H 他の学生と話をする機会	46.9%	67.6%	67.5%
12I 大学のなかでの学生同士の一体感	32.6%	51.4%	61.2%
12J 多様な考え方を認め合う雰囲気	44.8%	57.3%	61.5%
12K 大学での経験全般について	45.8%	62.3%	65.9%
12L 1つの授業を履修する学生数	48.8%	60.3%	65.1%



- ・ 2020年度の大学IR調査における、大学・短大別の、Q13「あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか」に対する、肯定的回答者率は次のとおりです。

設 問	IR加盟 大学	大学	短期 大学部
A 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）	53.9%	74.2%	64.9%
B 実験室の設備や器具	36.0%	51.8%	52.9%
C コンピュータの施設や設備	48.1%	69.3%	64.0%
D コンピュータの訓練や援助	42.0%	60.7%	58.0%
E インターネットの使いやすさ	44.9%	53.9%	55.6%
F 奨学金などの学費援助の制度	31.5%	51.2%	63.3%
G 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）	32.9%	42.9%	50.1%
H レクリエーション施設（ジムの設備など）	23.9%	46.1%	48.9%
I キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）	27.6%	43.4%	50.3%



<検証・評価結果>

大学、短大ともに、24すべての項目で肯定的回答率がIR加盟大学平均を5ポイント以上上回っている。新型コロナウイルスの影響で、一昨年に比べてIR加盟大学の肯定的回答率が低下する中、本学はよく健闘したといえる。ただし、個別に見た場合はIR加盟大学の肯定的回答率を下回る項目が目立つ学科・専攻もあり、詳細な分析・評価を行った上で改善点を明らかにする必要がある。

⑨ 休学者、退学者の状況

- ・ 疾病等の理由で2か月以上就学することができないときは、願い出により休学することができます。休学が認められる期間は1年（特別な理由がある場合は2年）まで、通算で大学は4年、短大は2年までとされています。
- ・ 卒業を待たずに大学をやめるケースとしては、主として本人の意思によるもの（退学）と、授業料等の未納、在学期間や休学期間の満了等によるもの（除籍）があります。なお、授業料等の未納により除籍になった場合でも、2年以内に除籍理由が解消すれば復籍することができます。

- ・ 2020年度の、大学・短大別の、休学者数、休学率と主な理由は次のとおりです。

	大学	短期大学部
休学者数（人）	70	16
休学率	2.9%	3.7%
主な理由	①進路変更考慮中 ②就学意欲の低下 ③家事都合	①進路変更考慮中 ②就学意欲の低下 ③家事都合

- ・ 2020年度の、大学・短大別の、退学・除籍者数、退学・除籍率と主な理由は次のとおりです。

	大学	短期大学部
退学・除籍者数（人）	52	18
退学・除籍率	2.1%	4.2%
主な理由	①進路変更（就職） ②就学意欲の低下 ③学費未納による除籍	①就学意欲の低下 ②進路変更（就職） ③進路変更考慮中

< 検証・評価結果 >

休学率はすべての学部で上限目標の2.0%を超過し、退学率でも2つの学部で上限目標の2.0%を超過している。特に短期大学部では休学率、退学率ともに増加傾向にあり、理由別にみると「就学意欲の低下」による休学、退学の増加が目立つ。今後、就学意欲が低下傾向にある学生を早期に発見する仕組みと、チューターを中心としたきめ細かな指導体制を徹底する必要がある。

## 【卒業時・卒業後の検証・評価について】

四国大学卒業時にディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を満たす人材となったかについて、次の6項目を検証・評価しています。検証のデータとしては、学内での調査及び大学 IR 調査の卒業生調査結果を使用しています。

### ① 修業年限での卒業率

- ・ 修業年限は、大学は4年（3年次編入学生は2年）、短大は2年（長期履修学生は3年又は4年）で、在学期間は修業年限の2倍までとされています。
- ・ 大学に3年以上在学し、卒業要件の単位を優秀な成績で修得した場合には、4年未満の在学での卒業（早期卒業）が認められる場合があります。

- ・ 2020年度卒業生における、学部別の、修業年限内での卒業生数、卒業率（修業年限内での卒業生数／修業年限前の入学生数）は次のとおりです。

学部	卒業生数（人）	卒業率
文学部	104	89.5%
経営情報学部	100	
生活科学部	254	
看護学部	96	
短期大学部	146	80.7%

#### <検証・評価結果>

修業年限内卒業率について、大学においては2017年度～2019年度の平均87.5%に対して2020年度89.5%と若干改善がみられるものの、短大においては85.8%から80.7%へと5ポイント以上悪化している。個別に見た場合も、大学で1学科、短大で3学科・専攻において80%を割り込んでいる。原因を究明したうえで、海外留学による休学等その理由が明確なものを除き、奨学金制度の拡充、チューターを中心とした指導体制の徹底等の対策が必要である。なお、短期大学部の修業年限内卒業率には、音楽科において長期履修制度を利用し就学を継続する学生が一定数いることが影響している。音楽科を除く短期大学部の修業年限内卒業率は85.0%である。

② 学位授与率

・ 本学の卒業生には、その学部・学科・専攻に従って次の学位が授与されます。

学部	学科・専攻	学位
文学部	日本文学科	学士（日本文学）
	書道文化学科	学士（書道文化学）
	国際文化学科	学士（国際文化学）
経営情報学部	経営情報学科	学士（経営情報学）
	メディア情報学科	学士（メディア情報学）
生活科学部	生活科学科／人間生活科学科	学士（生活科学／人間生活科学）
	管理栄養士養成課程	学士（保健栄養学）
	児童学科	学士（児童学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）
短期大学部	ビジネス・コミュニケーション科	短期大学士（ビジネス・コミュニケーション）
	人間健康科・食物栄養専攻	短期大学士（食物栄養）
	人間健康科・介護福祉専攻	短期大学士（介護福祉）
	幼児教育保育科	短期大学士（幼児教育保育）
	音楽科	短期大学士（音楽）

・ 2020年度の卒業学年在籍者における、学部別の学位授与数、学位授与率（卒業生数／卒業学年在籍者）は次のとおりです。

学部	学位授与者数（人）	学位授与率
文学部	108	96.0%
経営情報学部	104	
生活科学部	258	
看護学部	102	
短期大学部	149	88.7%

< 検証・評価結果 >

卒業学年学生数に対する学位授与率について、大学においては2017年度～2019年度の平均94.9%に対して2020年度96.0%と若干改善がみられるものの、短大においては94.5%から88.7%へと5ポイント以上悪化している。個別に見た場合も、大学で1学科、短大で1学科・専攻において90%を割り込んでいる。原因を究明したうえで、奨学金制度の拡充、チューターを中心とした指導体制の徹底等の対策が必要である。なお、短期大学部の卒業学年学生数に対する学位授与率には、音楽科において長期履修制度を利用し就学を継続する学生が一定数いることが影響している。音楽科を除く短期大学部の卒業学年学生数に対する学位授与率は95.2%である。

### ③ 就職希望率、就職率

- ・ 本学では、4年間あるいは2年間で望ましい職業観や勤労観を身につけ、主体的に進路を選択する能力・態度を育てるため、1・2年次の早い段階からキャリア教育科目の開設、就業力育成セミナーの開催など、積極的なキャリア教育を実施しています。
- ・ また、就職ガイダンス、学内企業研究会、就活トライツアー等の就職支援イベントを開催するほか、個別面談や模擬面接等によるマンツーマンの指導を頻繁に実施するなど、学生一人ひとりの志望、適性に応じた手厚い「個別就職支援」を展開しています。

- ・ 2020年度卒業生における、大学・短大別の就職希望者数、希望率（就職希望者数／卒業生数）、及び就職者数、就職率（就職者数／就職希望者数）は次のとおりです。

科目名	大学		短期大学部	
	人数（人）	率	人数（人）	率
就職希望者数・希望率	524	90.8%	125	83.3%
就職者数・就職率	507	96.8%	123	98.4%

#### < 検証・評価結果 >

2020年度の実績については、大学の就職希望率は90.8%と3カ年平均93.6%と比較して2.8ポイント下回っている。短大の就職希望率は83.3%と、3カ年平均90.7%と比較して7.4ポイント下回っている。これは、進学率が大きく増加した結果による。また、就職率については、大学の就職率は、96.8%と3カ年平均97.7%と比較して0.9ポイント下回っている。短大の就職率は、98.4%と3カ年平均97.5%と比較して0.9ポイント上回っている。社会や経済状況が大きく変化する中で、学生が自ら希望する職業に就くことができるよう、大学として継続して努力することが求められる。

#### ④ 進学率

- ・ 大学院への進学を希望する学生や、大学3年次への編入学を希望する短大生には、学修支援センターにおいて、積極的な情報提供や学修支援を行っています。
- ・ 特に、本学大学院への進学者には入学金の減免を行っています。また、四国大学への編入学を希望する短大生には、学生一人ひとりの進路希望に応じた個別プログラムを作成し、1年次から支援するとともに、その進捗に応じて奨励金を給付するといった『学内編入学支援プログラム』を展開しています。

- ・ 2020年度卒業生における、大学・短大別の、進学者数（進学希望者数）、進学率（進学者数／卒業生数）は次のとおりです。

科目名	大学		短期大学部	
	人数（人）	率	人数（人）	率
進学者数（進学希望者数）・進学率	27	4.7	16	10.7

#### <検証・評価結果>

2020年度の実績については、大学の進学率は4.7%と3カ年平均3.0%と比較して1.7ポイント上回っている。短大の進学率は10.7%と、3カ年平均3.6%と比較して7.1ポイント上回り、大きく増加している。近年、進学者が増加傾向にあるため、大学、短期大学部ともに進学をサポートする取り組みをさらに充実させる必要がある。

## ⑤ 留学の実績

- 本学では、学生が留学によって国際感覚を育み真の国際人として活躍できるよう、長期留学生給付金、交換留学生特別奨学金等の経済的な支援や積極的な海外協定校の開拓、また、国際課からの手厚いサポート等により学生の海外留学を奨励・支援しています。

- 2020年度の、海外の協定校は次のとおりです。

国名	協定大学数	大学名
アメリカ合衆国	1	サギノーバレー州立大学
イギリス	1	ウルバーハンプトン大学
中国	3	浙江大学（大学院）、湘潭大学、湖南財政経済学院
台湾	1	銘伝大学
オーストラリア	2	サンシャインコースト大学、サザンクイーンズランド大学
ニュージーランド	2	リンカーン大学、マッシー大学
キルギス	1	ビシケク国立大学
大韓民国	1	烏山大学校

- 2020年度の海外派遣留学生数は次のとおりです。

種別	留学生数
交換留学	0
長期留学	0
短期留学／短期研修	0
DDP ※	0
トビタテ留学 JAPAN	0

※ ダブルディグリープログラム：外国の大学との協定に基づく学生の相互留学と単位互換により双方が学位を授与するプログラム

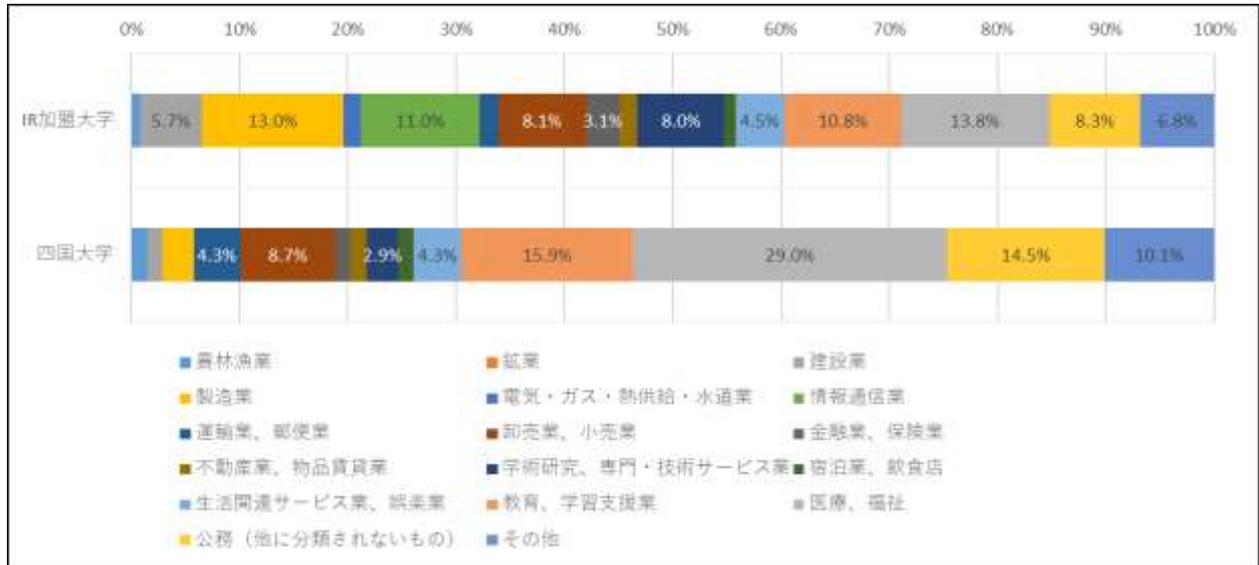
### <検証・評価結果>

2020年初頭からの世界的なコロナウイルス感染症拡大の影響を受け、本学の海外協定校への派遣及び海外インターンシップ派遣については停止せざるを得なくなっている。2020年度3月に計画していたサザンクイーンズランド大学看護研修は、オーストラリアの入国制限のため派遣されなかった。また、湘潭大学へのDDP学生も中国入国のビザ発給がなされないため派遣されなかった。結果的に、2020年度海外派遣留学生数は0名であった。2021年度も、コロナウイルス感染症拡大の影響により諸外国との往来が停止していることから、派遣の再開時期は未定である。今後は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束すれば、早期に交流が再開できるよう準備をする必要がある。

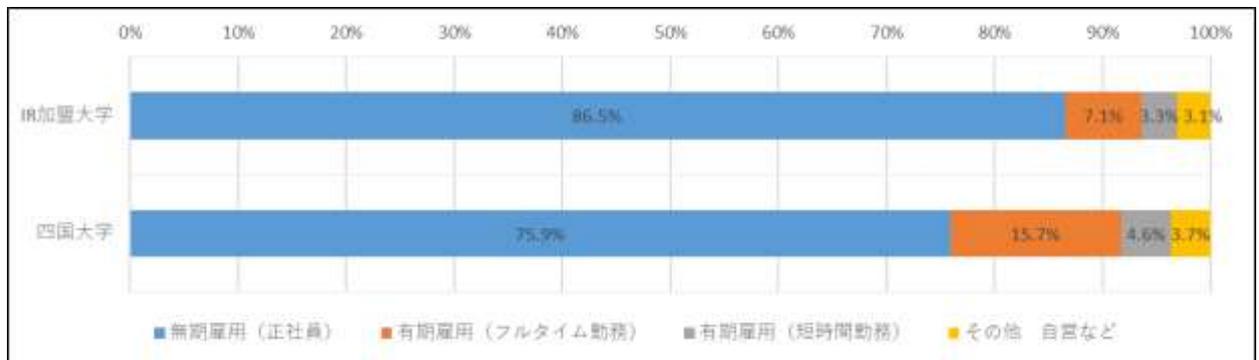
⑥ 卒業生調査（IR 調査）

- ・ 2020 年度に卒後 5 年の卒業生を対象として実施した大学 IR 調査（卒業生調査）による、卒業 5 年後の就労状況は次のとおりです。（データ数の関係で大学と短期大学部のデータを集計しています。）

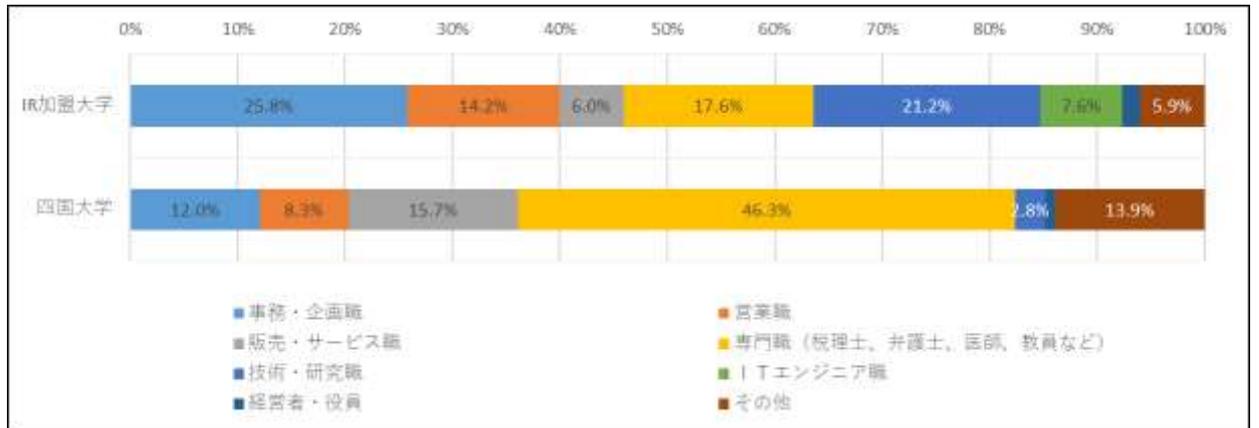
（現職の勤務先の業種）



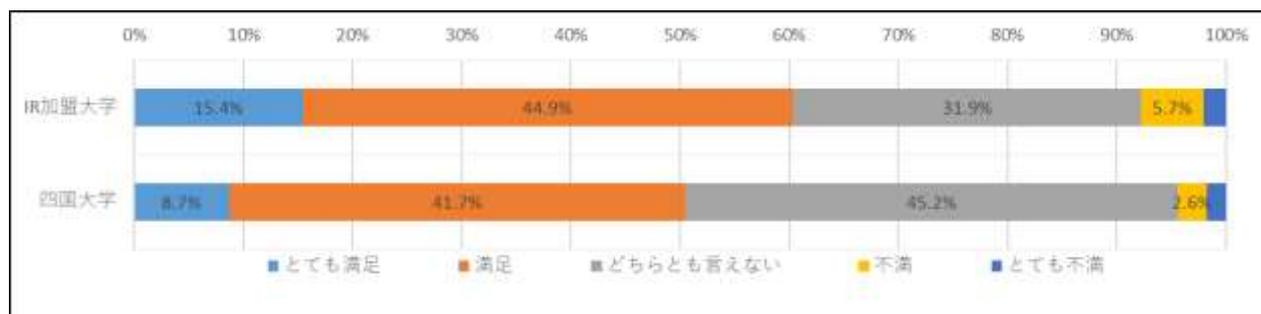
（現職の就業形態）



（現職の職種）



(キャリアパスの満足度)



<検証・評価結果>

キャリアパスに満足している卒業生の割合は、IR加盟大学平均が約60%であるのに対し、大学で約50%（特に文学部で約35%）、短大で約40%と低い傾向にある。この傾向は、初職及び現職の就業形態における有期雇用の割合と符合している。その他にも原因を探求し、卒業生のキャリアパス満足度を上げるための対策が必要である。